

文化メモ

▽ロマン・ランセミナ
一読書会例会 15日後2時、京都市左京区銀閣寺前

町、ロマン・ラン研究所、『ジャン・クリストフ6アントワネット』。発表者は西尾順子氏。会費5百円。問い合わせは同研究所☎075(771)3281。

・「フィギス」のJJ 音も出回っているという。には、イルラン 「ユリシーザ」の難解な優りによる小説朗読 本文と膨大な訳注を行ってきた。テープがおびただするのに疲れたら、原文の一節を収めたものにはなかつたが、音に耳傾けてみるのも手だろう。JJのボイスが聞こえてくるかもしない。

(敬称略)

開発の目的は

松岡 これまでコンピューターとの出会いを演出しや日本文化とコンピューターとの出会いを演出した。山水画の余白や、にじみ、ほかといった要素をコンピューターで表現したかった。ただ、見せるというだけではなく、そうした東洋的な山水世界に入り込み、体験を通して、物語を紡いでいくことができたら、どのような体验ができるのか

松岡 ユーザーは、タッチパネルを操作して、山水画を描く。描いた絵によって、異なる禅問答や俳句などが流れる。カードゲームなども組み込んでいるが、ゲームのみ方は人によって違う。



【JJメモ】非営利団体「ジェームズ・ジョイス・センター」では、教員・学生向けの講義や専門図書閲覧も。6月12—19日、各国のJJ研究者を集め国際シンポを主催。同センターのホームページは、<http://www.jamesjoyce.ie>

開発の2人に聞く 東洋の美意識表現できたら

禅や東洋思想をコンピューターを通して表現する「ゼネティック(ZENEtic)」コンピューター」を編集工学研究所の松岡正剛所長と、コンピューター工学研究者の土佐尚子さんが共同開発



高台寺に展示されている「ZENEticコンピューター」を前にして話す松岡さん(右)と土佐さん

した。京都市東山区の高台寺で展示中のコンピューターの開発の目的や可能性について二人に聞いた。

のバードが披露された(ジェイ

ー

松岡 ユーザーは、タ

ックイメージを実際にシス

テム化するのは難しい

テム化するのは難しい

あるメンタルモデルとコン

ピューターとつなげてどん

なシステムができる

か、今も試行錯誤を重ね

ている。本来のコンピューターの役割は、人間に

刺激を与えたたり、誘発し

たり、何かを引き出すと

いうところにある。決して人間を繰るものではない。

ゼネティックコンピューターは、宗教と科学との統合の仕方を探る第

一步にしたい、と思って

いる。

「コンピュータによる

山水禅」展は六月六日ま

で、高台寺北書院で(入